

SaaS や WEB へのアクセスを完全可視化 完全テレワーク環境のセキュリティを確保する



「提案力とテクノロジーで、あるがままに生きられる世界を創る。」をビジョンに掲げ、情報システム部門に特化したコンサルティング、およびシステム開発・AI 開発などを企業ごとの課題に対してオーダーメイドで伴走するバリュエンステクノロジー株式会社。顧客向けにワンストップで IT の導入を提供する同社は、自社の IT 環境や働き方についても積極的に IT を活用しています。社内では完全テレワークを実施していますが、その一方で個人端末での通信ログの監視やシャドー IT の可視化が課題となっていました。同社では Netskope の導入によって課題の解決を図りつつ、グループ全体のセキュリティ強化を目指しています。

テレワークの推進にともない パソコン端末のセキュリティ管理が課題に

バリュエンステクノロジーが提供するサービスは、一気通貫の「AI 導入・システム開発」支援と、グループ内の IT 部門として培ってきた知見を生かした「情シス部門に向けた IT コンサルティング」です。これらの業務は必ずしも自社のオフィス内で完結するものではないため、同社でも数年前から積極的にテレワークを推進してきました。こうした働き方をしているスタッフは外部の業務委託を含め、100 名以上に上ります。

テレワークには多くのメリットがある一方で、端末のセキュリティ管理は容易ではありません。仮に 100 名のスタッフ全員に業務専用パソコンを支給すると 3000 万円近くのキャッシュアウトが発生します。また、個人所有のパソコン端末 (BYOD) を自由に業務利用させると、推奨されない Web や SaaS へのアクセスなど、シャドー IT の問題が避けられません。

同社はこれまで、個人所有のパソコン使用を基本としつつ、AWS に置いた基幹システムへのアクセスを VPN 経由で行わせてきました。これはいわば「最低限のセキュリティ確保」です。しかし新型コロナの影響でテレワーク化が加速する中「最低限のセキュリティではなく、知らず識らず発生する漏洩や攻撃からも社員やシステムを守る必要がある」(執行役員 CIO 木戸啓太氏) と、同社のセキュリティ意識は大きく強化されました。

CASB による高性能な可視化に加え SWG の通信速度やコストが導入の決め手に

業務上 WEB へのアクセスや SaaS の利用が頻繁に発生する以上、セキュリティを確保するためにはそうした通信の効率的な管理・制御が欠かせません。だからといって業務専用のパソコン端末をすべてのスタッフに配布するのは金額的な負担が大きすぎます。

そこで注目したのが Netskope です。「CASB や SWG の機能を兼ね備え、WEB 通信全般のセキュリティが担保される。グローバル IP アドレスが払い出され、通信ログも取れる。IdP と連携することでユーザーの認証も制御できる。業務用のパソコンを会社で配布するよりも、個人のパソコンに Netskope を入れてもらい、業務のときだけ ON にする方がはるかに効率的です」と木戸氏は語ります。

Valuence Technologies

バリュエンステクノロジー株式会社
<https://www.valuence.inc/>

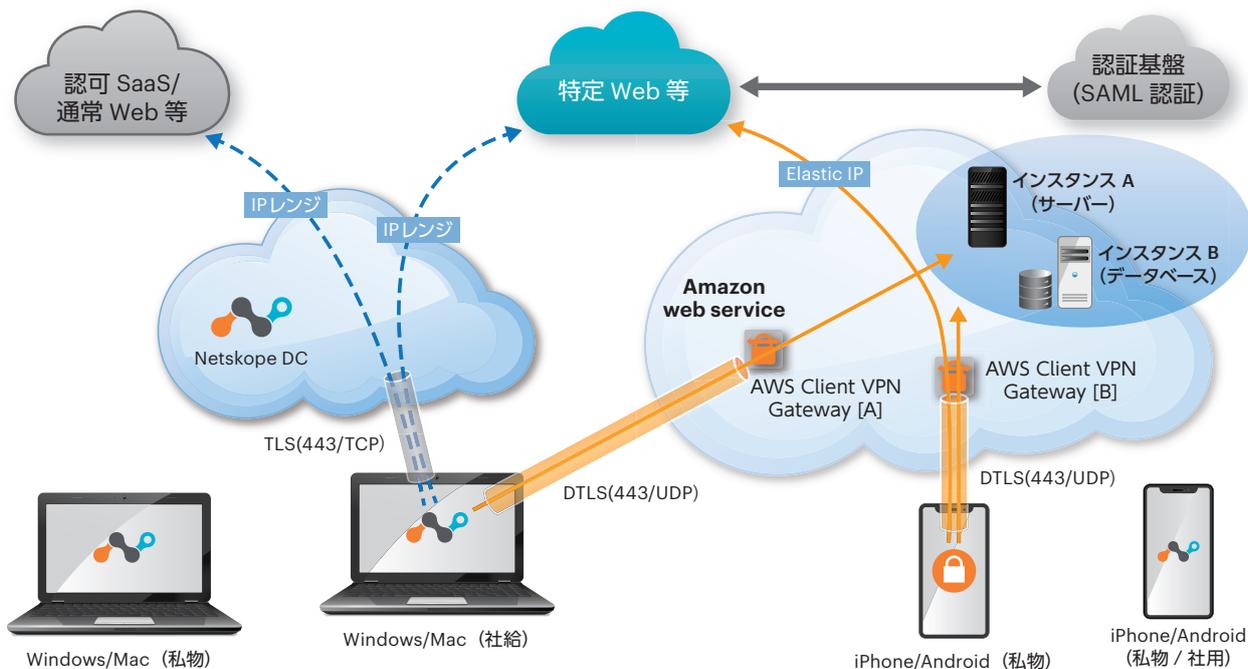
会社概要：

2019 年 11 月に設立されたバリュエンステクノロジー株式会社。「提案力とテクノロジーで、あるがままに生きられる世界を創る。」というビジョンを掲げ、バリュエンスグループ各社の業務を支えるシステム開発やアプリ開発、さらには社外向けの「丸投げ AI 導入パッケージ」「情報システム部門特化型コンサルティング」を提供しています。専門の研究機関と連携し、常に最先端の AI 技術を取り入れ、AI 導入や DX 推進を通してさまざまな企業をサポートしています。



バリュエンステクノロジー株式会社
執行役員 CIO (Chief Information Officer)
最高情報責任者
情報システム部 部長 /
コーポレートエンジニア
木戸 啓太 氏

システム構成図



CASB、SWG を併用して BYOD でもセキュアな環境を構築

Netskope の本格導入は 2021 年のゴールデンウィーク頃のこと。しかし導入に向けた検証は前年の冬から行っていたといいます。「セキュリティソリューションはコストがかかるため、いったん導入するとなかなかリプレイスできません。そこで他社製品を含め、慎重に検討しました」(木戸氏)。検証を通して導入の決め手となったのは、シャドー IT の可視化性能、通信スピード、コストです。比較した他社製品は可視化が思ったほどでなく、通信も遅かったといいます。この点、Netskope は通信速度も可視化性能も満足できるものでした。加えて Netskope の導入は、業務委託全員に端末を配布するよりはるかに低コストです。

さらに、「近日中にクラウドファイアウォールが実装される」と聞いたことも Netskope の導入を後押ししました。パリュエンスグループ全体でファイアウォールの導入を検討していたこともあり、通信の可視化とファイアウォールを一本化できることも「大きな決め手になった」と木戸氏は語ります。

担当業務によって機能をカスタマイズ ストレスのない業務と安心・安全を両立させる

Netskope は、パリュエンステクノロジーだけでなくグループ会社にも導入されています。木戸氏によると「CASB、SWG、DLP 機能など Netskope の機能をフルで使っている」ものの、それぞれの機能は担当業務の内容や会社ごとに設定を変えているとのこと。

たとえば開発エンジニアであれば、業務上さまざまな検索が必要があるため WEB フィルタをかけず、代わりに一定の SaaS には自社のドメイン以外でアクセスできないようにするといった具合です。他にもアラートやログを取得してから管理するか、それ以前にアクセスを制御するかな

ど、グループ会社によっても設定を変えています。このように柔軟な設定を可能にしていることも、Netskope の大きな強みといえるでしょう。

Netskope の導入によって得られた効果について、木戸氏は「業務委託を含めた全従業員がどういう形で通信や業務をしているか見られるので、セキュリティコンプライアンスの面でも安心です」と語っています。また IdP との連携により、ユーザーごとにポリシーを指定できることも業務の効率化に大きく貢献しているとも感じているそうです。

使用しているスタッフからも、通信にストレスがないこと、使わないときに機能を OFF にできること、そしてカフェなどの Wi-Fi 環境でもセキュリティを確保した状態で仕事ができる安心感など好意的な声が寄せられており、同社の業務は Netskope によって大きく前進しました。

サービス連携と一層のログ取得が今後の課題

Netskope とともにテクノロジーの進化に貢献する

更なるセキュリティ強化を目指すパリュエンステクノロジーズ。これから取り組んでいきたい課題はさまざまなサービス連携だといいます。たとえばクラウド RADIUS と連携して Netskope の利用者を絞り込むといった具合に、各種サービスと連携することで Netskope の機能を最大限に活用したいと考えています。また、API 連携して「さらに詳細なログ」を見られるようにすることも今後の課題だといいます。導入から半年近くが経過したことで、これから Netskope を使ってやりたいこと、やるべきことも明確になってきましたと木戸氏は語ります。

「こうした課題を追求していくためにも Netskope 社からのフォロー体制は欠かせません」と Netskope とともにユーザーレベルでの更なるセキュリティ強化を見据えています。



SASE のリーダーであるネットスコープは、ネットワークの内外を問わず、あらゆるデバイスからインターネット、アプリケーション、およびインフラストラクチャに、ユーザーを安全、迅速かつダイレクトに接続します。1つのプラットフォーム上にネイティブに構築された CASB、SWG、および ZTNA を使用して、ネットスコープは、あらゆる場所で高速、データ中心、クラウドスマートなソリューションで、優れたデジタル化を実現し、トータルコストの削減に貢献しています。